



図 26.4 腺病性苔癬 (lichen scrofulosorum)



図 26.5 陰茎結核疹 (tuberculid of the penis)

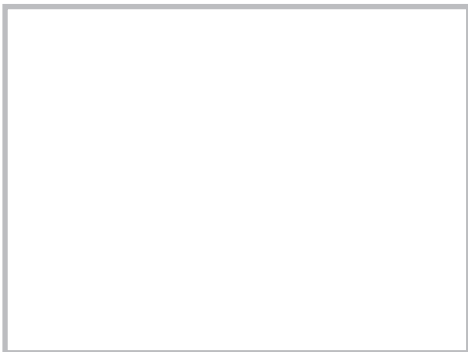


図 26.6 腋窩リンパ節腫脹 (axillary lymphadenopathy)

膝窩に好発する。1 cm 大までの大きさの暗紅色丘疹が対称性に多発し、膿疱、壊死、潰瘍を経て瘢痕を残して治癒する。このような皮疹が次々と出現し、新旧の皮疹が混在した状態で慢性の経過をたどる。皮膚白血球破碎性血管炎(11章 p.163 参照)や苔癬状枇糠疹(15章 p.291 参照)などと鑑別を要する。抗結核薬が有効である。

3. 腺病性苔癬 たいせん lichen scrofulosorum

直径1～数 mm の常色～紅色に扁平隆起した丘疹が、体幹や四肢に散在性、ないし集簇融合して局面を形成する(図 26.4)。毛孔一緻性に生じることもある。自覚症状はほとんどない。病理組織学的には、毛包や汗腺周囲に類上皮細胞と Langhans 型巨細胞を認めるが、乾酪壊死はなく、組織培養にて結核菌は証明されない。抗結核薬による治療により1～2か月で治癒する。

4. 陰茎結核疹 しゅうかく tuberculid of the penis, penis tuberculid

陰茎に限局した丘疹壊疽性結核疹(前述)である。腎結核や膀胱結核をもつ者に発症しやすいとされる。亀頭や陰茎に有痛性の潰瘍を生じる(図 26.5)。臨床的に陰茎癌との鑑別を要する。

c. BCG 副反応 adverse reactions to bacillus Calmette-Guérin vaccine

日本では生後1年未満の乳児に対して、弱毒化したウシ型結核菌 (*M. bovis*, Tokyo172 株) を接種する BCG ワクチンが結核予防目的で実施されている。生ワクチンであるため、まれに感染が成立して真性皮膚結核や結核疹に準じた症状をきたす。

① Koch 現象 (Koch phenomenon)

結核未感染の健常人に BCG ワクチンを接種すると、約4週間で接種部位に痂皮を伴う丘疹が形成され、その後自然退縮する。一方、すでに結核感染が成立している者に BCG ワクチンを接種すると、細胞性免疫が確立しているために数日で接種部位に著明な発赤をきたす。これを Koch 現象という。

② 腋窩リンパ節腫脹 (axillary lymphadenopathy)

BCG 副反応として最も高頻度に見られ、接種者の約0.7%に生じる。接種1～3か月後から、接種した側の腋窩リンパ節が腫脹する(図 26.6)。腋窩以外にも生じることがあり、BCG 肉芽腫 (BCG granuloma) ともいう。自覚症状に乏しく、数か月から1年程度で自然消退するが、まれに拡大して潰瘍化し、